

大正の天王寺



明治41年ごろの市電

市電の発達

内国勧業博覧会に集まった全国の人達に近代的な築港をみてもらおうと計画された花園橋（西区）～築港間が大阪の市電の始まりです。明治36年9月に開通しました。

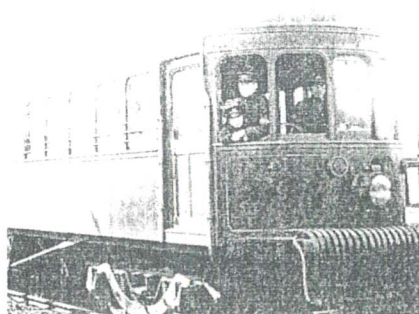
それ以降市電は大正、昭和と市内に広がり、市民の大切な足となりました。それとともに市電は狭かった道路を近

代的な広い道にかえる役目も果たし、地域の発展にも密接な関係にありました。（写真は市電最初の交差点となった四ッ橋交差点）

天王寺区でも明治44年に上本町線（上本町二～天王寺西門）が開通したのを初め、次々と開通し、地域の発展の原動力となりました。



開通当初の上六駅



大阪電気軌道（大正3年）

郊外電車の開通

現在の近鉄奈良線の上本町～奈良間が開通したのは大正3年のことです。当時は“大軌電車”（会社名が大阪軌道から）といわれていました。生駒トンネルは大変な難工事で、開通当時は生駒トンネルの見物客で電車はずすなりの満員であったといいます。

当初の上本町駅は極めて小規模なものでしたが大正15年に完成した大軌ビルディングは最近まで東大阪方面への玄関としての役割を果たしました。

今でもお年寄りがよく使う「大鉄」の近鉄南大阪線の大阪への進出は大正12年のことです。初めは柏原～長野間の河南鉄道より出発（明治35年）、大正8年に大阪鉄道と改称をしました。昭和4年には橿原神宮まで延び、阿倍野付近は大阪の南の一大ターミナルとなりました。



大軌ビル

大正の天王寺



昭和13年の動物園

大正の天王寺

(天王寺区の成立)

天王寺公園の整備が進み、大正2年に公会堂が建設され、4年には天王寺動物園が開園されました。動物園の開園時には当時の東区本町にあった府立博物館からの象の引越しが大きな話題になりました。また公会堂は大正デモクラシーの影響から立会演説会にもよく使われ、大阪の米騒動も公会堂の演説会が発端であったといわれます。

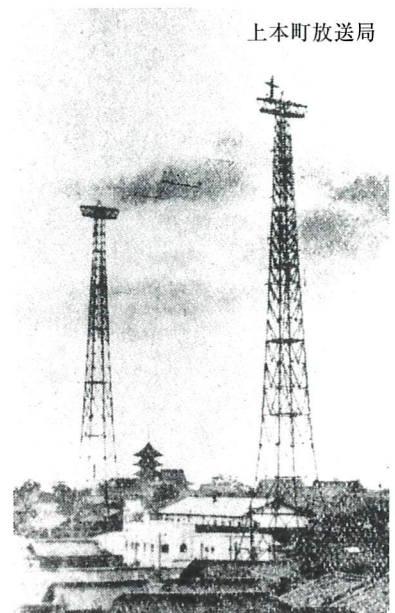
また、大阪市は市勢の著しい発展で、隣接の町村が都市化をみたことから第二次市域拡張を大正14年4月に行い、13区に増区をし旧南区から南・浪速・天王寺区が生まれることとなりました。



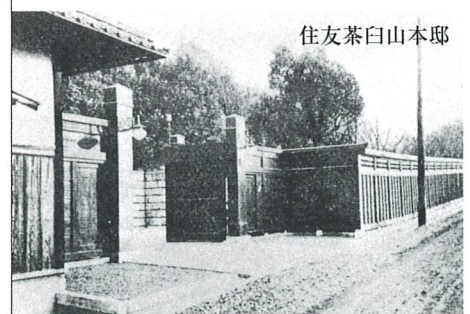
天王寺公会堂

上本町放送局

大阪のラジオ放送は大正14年に高麗橋三越の屋上からの仮放送が始まりましたが、大正15年に上本町9丁目に放送局舎が完成、12月より本放送が開始されました。



上本町放送局



住友茶臼山本邸

住友茶臼山本邸

現在の美術館付近は、もと住友家茶臼山本邸のあったところです。住友家は明治28年に別荘をこの地に建て、内国勸業博覧会の際には休憩所としても使用したが、明治40年本邸として工事をし、周囲に広大な板塀をつくりました。

邸内の庭園は慶沢園と称し、大正10年、大阪市に美術館等の用地として寄附、現在の慶沢園、美術館となっています。